

Chapter 2

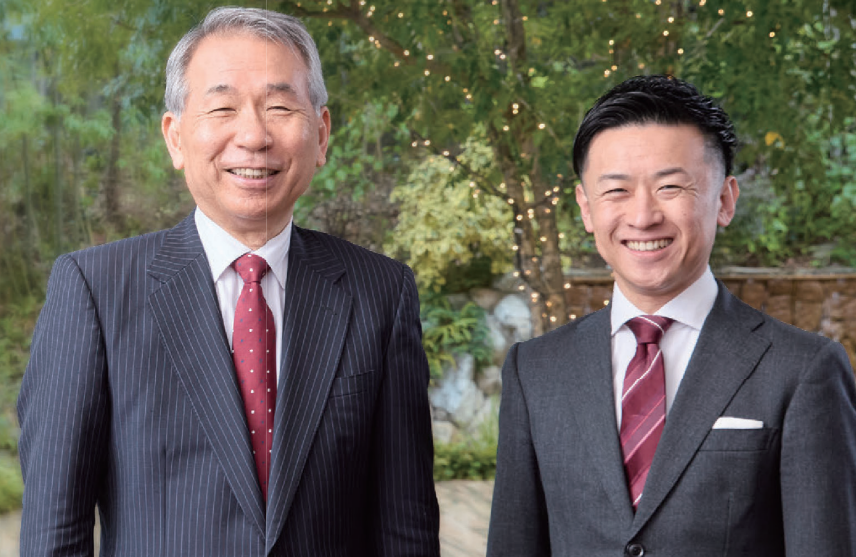
トップコミットメント 会長・社長対談

ご縁ある人々の笑顔のために ——理念を基盤に、 新体制で“進化”を加速させる

2026年1月27日、金子和斗志が代表取締役会長CEOに、中嶋大祐が代表取締役社長COOに就任し、アイ・ケイ・ケイは新たな経営体制へと移行しました。

本対談では、創業以来大切にしてきた経営理念を基盤に「どう進化させていくのか」、そして新体制に込めた想いと、それぞれが担う役割について語ります。

理念は変えない。しかし、その理念が果たす役割は、時代とともに進化・変化させていく必要があります。その考え方こそが、今回の体制移行の根底にあります。



代表取締役会長CEO
金子 和斗志

代表取締役社長COO
中嶋 大祐

理念経営

理念は、守るものから 「未来を切り拓くための基盤」へ

金子 当社の持続的成長を支えてきた最大の原動力は、間違いなく「理念経営」です。理念を掲げている企業は多くありますが、それが実際の判断や行動の基準として機能している会社は、決して多くありません。

私は、理念を真に浸透させるために最も大切なことは、「トップ自らが体現し続けること」だと確信しています。

創業以来、私自身が常に「これは理念に沿っているか」を自らに問い、部下にも同じ問いを投げつけてきました。その積み重

ねによって、今では現場の社員一人ひとりが、自らの判断で理念に照らした意思決定を行えるようになっていきます。

理念が現場の隅々まで行きわたり、誰かの指示を待たずとも最適な判断がなされる。この状態こそが、私たちが目指してきた姿です。一方で、事業の領域が広がり、意思決定の難易度が高まるこれからの時代においては、理念は「守るだけのもの」では足りません。理念を、次の成長に耐えうる“基盤”として進化させていく必要がある——その強い思いが、今回の新体制への移行の背景にあります。

中嶋 私も、社内の至るところで、理念が「額縁のなかの言葉」ではなく、日々の行動として生きていることを強く実感しています。私自身、かつての上司が理念を体現する姿に惹かれ、「自分もこうありたい」と思えた経験が、理念を自分事として捉える原点でした。

人生観と会社の理念が一致しているからこそ、迷いのない判断ができる。理念は制約ではなく、自分らしく挑戦するための指針であり、支えとなってきました。

そして今後は、その理念を“守る”だけでなく、判断軸として使いこなし、未来を切り拓いていくフェーズに入ったと感じています。

金子 社長選任にあたって、私が最も重視したのは、「理念を誰よりも体現し、そして理念を未来へ進化させてくれる人物かどうか」でした。

中嶋さんは、理念を大切にしてくただけでなく、理念を軸に新しい挑戦を次々と形にしてきた人財です。

私の役割は、これからも変わりません。事業や戦略が変わろうとも、判断基準となる理念をぶらさないこと。その“拠り所”を守り続けることが、会長としての責任だと考えています。



変化が大きい時代だからこそ、変えてはいけないものを明確にする。その役割を担い続けていきます。

中嶋 私は、金子さんが守り続けてきた理念を、次の成長につなげていく役割を担っています。

既存事業で培ってきた「感動を創る力」を、新規事業や海外、さらには観光産業へと展開していくなかでも、判断軸は常に同じです。理念があるからこそ、事業領域が変わってもぶれることなく挑戦できていると考えています。

そのうえで、当社の理念は、守るためのものにとどまらず、「成長のエンジン」としても機能していると思っています。当社には「理念に反しなければ、挑戦は自由」という風土があります。

各担当者が「お客さまのために何ができるか」を起点に自発的に考えたアイデアが、競合他社には真似できない、感動価値の高いウェディングを生み出してきました。

「理念の実践 → 顧客満足の向上 → ファン（顧客）の獲得 → 会社の成長」という好循環こそが、全国展開および上場の原動力となってきたのだと感じています。

逆境を力に変える

理念に基づく自律的な行動が 個人の成長と会社の躍進を加速させる

金子 創業以来、理念経営の真価が最も問われてきたのは、常に「逆境」の局面でした。とりわけ強く印象に残っている出来事が二つあります。

一つは、食中毒などのトラブルが発生した際の対応です。このような場面でも、隠すという選択肢は取りませんでした。保健所に対してすべての情報を開示し、すべての新郎新婦のご両家に直接謝罪と状況説明を行いました。この経験を教訓として改善を積み重ねた結果、後にホテル業界初・ウェディング業界初となる国際規格ISO22000の認証取得へとつながりました。

もう一つは、コロナ禍という未曾有の逆境です。この状況においても、私たちの判断軸は変わりませんでした。売上が大きく落ち込むなかでも、短期的な業績悪化を理由に採用を止めるのではなく、将来の回復局面を見据え、必要な人財を確保し育成しておくことが重要だと判断しました。

当社には正社員だけでなく契約社員も数多くいますが、そうした方々も含め、誰一人としてリストラは行っていません。また、「給与のカットはしない」という方針を全社員に明確に伝え、人を守る経営を貫いてきました。

こうした場面で一貫して判断の拠りどころとなってきたのが、当社の理念です。理念に照らし、誠実であることを最優先に行動し続けてきました。その積み重ねこそが信頼の礎となり、今日の当社を支えているのだと実感しています。

ただ、成功体験に安住せず、私自身もさらに人間として成長しなければならぬと常に考えています。理念浸透の道に終わりはありません。

中嶋 おっしゃる通りです。最も重要なのは、「自分自身が理念を体現できているか」を常に内省し、謙虚に努力を積み重ね続けることだと思っています。

責任を持って先頭を走り続けること。その姿勢を示し続けることが、私の役割だと考えています。

成長戦略

理念を軸に、次の10年へ

金子 国内のウェディング市場は人口動態の影響を受けていますが、私はこれを悲観的には捉えていません。むしろ、第2、第3の事業の柱を確立する好機だと考えています。理念を共有する経営人財も育ち、次のステージへ進む準備は整いました。ウェディングのブランド化を軸に、食品事業、ホテル・カフェ事業、そしてそれらを統合した観光産業、さらには人財事業へと成長戦略を加速させていきます。

中嶋 新規事業への挑戦に対し社内には、新たな挑戦に対する前向きな空気が広がっています。

既存事業で磨いてきたホスピタリティや感動創造の力を、他領域に広げられることに、大きな可能性を感じています。

金子 一方で、主軸であるウェディング事業についても、進化を止めるつもりはありません。

都市圏でのウェディング展開においては、規模ではなく「質」で勝ち切ります。ミシュランの技術を持つ料理スタッフの配置や、アルバイト主体の運営から「正社員化」への移行により、圧倒的なクオリティと均質化を実現していきます。さらに、衣裳や写真といったソフト面を融合させた「総合力」で、「ウェディング」といえばアイ・ケイ・ケイ」という確固たるブランドを構築します。

中嶋 観光産業については、複合リゾートの計画を進めています。また、2025年10月に立ち上げた人財事業は、日本およびインドネシアを皮切りに、将来的に人口増が見込まれる東南アジア全域への展開を見据えています。

新体制の意味

「守り」と「攻め」を掛け合わせる

金子 新体制は、私が既存事業と理念の基盤を支え、中嶋さんが新規事業と未来を切り拓く、共同代表制です。守るための分業ではなく、理念を軸に進化するための役割分担です。

中嶋 私は実行に責任を持ちます。理念を共有する仲間を増やし、社員一人ひとりが「いい人生」を送れるよう、利益を伴う成長を必ず実現していきます。

ステークホルダーの皆さまへ

金子 当社は、さらなる成長の入口に立っています。本統合報告書を通じて、アイ・ケイ・ケイの変わらない強みと、進化し続ける姿勢を感じ取っていただければ幸いです。

中嶋 アイ・ケイ・ケイは、これからも「誠実・信用・信頼」を経営の原点とし、理念を未来につなげる挑戦を続けてまいります。引き続き、温かいご支援をお願いいたします。

